

ブナ林は変化しています！

世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会

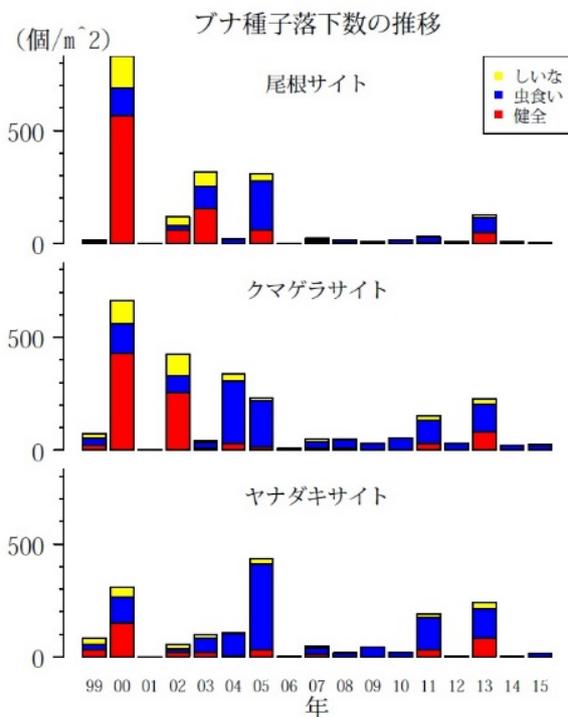
白神山地のブナ林のような原生林は、長い間変化していないように見えますが、実は少しずつ変化しています。4000年間、ブナ林が続いてきたと言っても、一本一本のブナは4000年も生きられませんから、大木が倒れたあとそのあとを継ぐ木が育ってこなくてはなりません。種子（タネ）が生産され、実生が生えてそれが大きくなり、やがて枯れてゆくということを繰り返しながら森は続いてゆくのです。また、タネも毎年稔るわけではなく、何年かに1回大量に稔りますが、そのほかの年はあまり稔らないというようなこともわかっています。白神山地では、2000年に大量にタネが稔りましたが、それ以降、大量にタネが稔った年はほとんどありません。



大木が倒れ、ブナ林の天井に穴があく。



大豊作のブナの種子



モニタリングで観察された、ブナの種子生産の年変動パターン

ブナ林を定期的に観察することで、こうした変化にいち早く気づき、対策をとるために必要なのが「モニタリング」です。白神山地では、ボランティアグループと環境省が協力して、1999年から毎年ブナ林の変化をモニタリングしています。

白神山地は世界に誇れるブナ林が残っていることで世界遺産に指定されています（裏をご覧ください）。白神山地周辺の地域の人たちが自主的にモニタリングをすることで、世界遺産の価値をより深く知ることができ、その変化にいち早く気づき、その将来を地域中心で考えてゆくことができるでしょう。みなさんもモニタリングに参加してみませんか？



白神山地ブナ林モニタリング調査へのお誘い

世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会

世界自然遺産白神山地のブナ林では、どんな変化が起こっているのか？森林の変化はなかなか目に見えませんが、毎年同じ場所を見続けていくとその動きが見えてきます。世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会は、世界遺産のブナ林がどのようにできあがり、移り変わっていくかを知るために、世界遺産の核心部分に1haの調査区を3カ所設置し、研究者・学生・一般ボランティア・行政が協力して、毎年調査を続けています。科学の視点で白神山地のブナ林を見てみませんか。

詳しくは、白神山地モニタリング調査会HP参照 (<http://monitoring.sakura.ne.jp/>)

2018年のモニタリング予定

- 6/23(土) : 調査区の設定
- 7/28(土) : サンプル回収
- 8/25(土) : 9月のモニタリング調査準備、調査区のメンテナンス(予定)
- 9/7(金)~9(日) : モニタリング調査(テント泊2泊3日)
- 10/6(土) : サンプル回収
- 11/3(土) : サンプル回収と調査区撤収;打ち上げ!

- 基本的に調査前日夜に青森県西目屋村の遺産センター集合。9月以外は調査日に山から戻り、その夜に戻ることも可能ですし、遺産センター泊で翌日帰りも可能です。
- 山を歩ける人なら誰でも参加できます。参加希望者が多い場合は世界遺産地への悪影響を考慮して、他の時期の調査に回っていただくかもしれません。

参加希望者は各調査日の2週間前までにご連絡ください。

連絡先:事務局 石橋 史朗

office@monitoring.sakura.ne.jp

